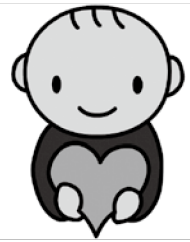


こころらぼ

こころの「ラボレーション」



スクールサポーター
(臨床心理士)
小林 真理

こころの

「ラボレーション」

そもそも障がいって…?

これまでの「こころらぼ」では、さまざまな障がいのこと、その子どもの様子や保護者・ご家族の方がどのような思いで過ごしているのか、そして一緒に過ごす中で私たちの小さな気づきが障がいへの理解、障がいをもちながら過ごすことへの理解へとつながっていくのではないかとつづいてきました。

以前に某テレビ番組で、様々な障がいのある人達と、障がいのない人達が同じことにチャレンジする、という企画がありました。それぞれの障がいから考えると「達成が難しいのでは？」と思われるようなチャレンジを番組の中で紹介する、というものです。同じ

目標でも、達成のためのアプローチや練習方法はちがいが、障がいのある人には様々な工夫がされています。練習方法や工夫は違っても「一生懸命に練習を重ねて目的を達成する姿」がテレビからは流れていました。

このテレビ番組の企画をどう感じるかは人それぞれですが、確かなことは、その人のできることを活かしながら、どうやって工夫し「できるよくなるか」を実践しているということだと思います。

「障がいがある」ということ「できない」「ことばかりがイメージされてしまいがちですが、目に見えないような身体的な障がいだろうと、発達・知的・精神障がいなどのように見た目ではわかりにくい障がいだろうと、それぞれの障がいの特徴を理解し、「できる部分」を活かしたり、「こうだったら落ち着いて過ごせる」という理解のもと、その人に合わせて環境調整や工夫をして「できるよくなる」に「過剰しやすいように」サポートしていく、そしてみんなと一緒に生活していく、という考え方が、国際的な流れ

の中でも主流になってきています(世界保健機構・WHOの国際生活機能区分：ICFに基づくインクルージョン…「共生」という考え方)。同じ種類の障がいでも、程度や個人の性格などによるところもありませんが、周囲の理解の有無や工夫、得られるサポート環境の違いなどによって、過剰し方やできることの幅が左右されることは、想像に難くないのではないのでしょうか。イメージしやすい例の一つとして、バリアフリーのある・なしによって、それを必要とする方の生活の質が変わってくる、ということがあげられるのではないのでしょうか。

障がいのハンデをどのように補い、どうやってできるように、過剰しやすいように工夫するのか。「障がいはあるけど、こんなサポートがある」「こういう理解があれば、過剰しやすい」という捉え方があることに触れ、関わっていくことが大切になってくるのですね。



植物園だより

今月のよく冷え込んだ日の朝、シモバシラという植物の茎の根元に、氷の結晶が見られます。

天候にもよりますが、9時からお昼ごろまでご覧いただけます。



シモバシラに見られる氷の結晶

絶滅が危惧される植物

植物 ②6

植物園では、絶滅が危惧される植物の保存にも取り組んでいます。今回は富士・箱根地方に特産するサンショウバラを紹介いたします。



サンショウバラ

6月、淡紅色で直径約5センチメートルの花をつけます。花には芳香があります。植生の遷移、森林の伐採などにより、絶滅の危険が増大しているといわれており、植物園では種子による増殖をおこなっています。

入園料無料のお知らせ

実施期間 11月1日(金)～

12月25日(水)

開園時間 9時～17時

問い合わせ

植物園

☎ 48-3337